

野村宏次

(ノートルダム清心女大)

目的：環境問題への取り組み課題として、政策や技術的対応に加えて教育啓蒙活動があげられる。とりわけ、これからの環境問題のキーを握るといっても過言ではない主婦や幼少の子供たちへの教育啓蒙は重要であり、近い将来に主婦となり母親となる女子大学生への環境教育の意義は大きい。本検討は、女子大学における教育活動を通して、今後の具体的に有効な環境教育の方法を探索することを目的とするものである。

方法：環境問題に関する授業、例えば大気汚染や住環境、ごみ処理やリサイクル等についての講義、演習、ゼミ活動における学生の提出レポート、試験の答案、質疑応答などによる意見採取を基に、女子大学生の環境問題に対する意識の分析を行なった。

結果：学生の関心度が高い環境問題の種類と関心度の高い理由、また、これからどのようなことを学んでいきたい希望をもっているか等の意識を分析した結果、女子大学における環境教育のあり方について以下のような知見が得られた。①まず、例えば「家庭でできるCO₂抑制の具体的な方法」のような、女性にとりわけ身近な問題であることが認識できる題材からの導入が基本である。②また、大学における教育内容のレベルについては、高校までに学んできた内容から一気にあまり専門的になるのは避けるべきである。③同時に、これまですでに得ている表面的な知識にとどまらず、これに加えて「なぜこのようなことが起こるのか」といった原因の究明、理解や「では自分たちは何をすればいいのか」「自分たちに何ができるのか」といった対応策まで一步踏み込んだものであることも要求される。